

令和7年度(2025年度)

病害虫発生予察情報 第11号

注意報第5号

北海道病害虫防除所 令和7年(2025年)7月10日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

各種果樹で大型カメムシ類による果実被害が多くなる恐れ！ 園地を観察して、発生を確認したら早めの防除を心がけよう！

本年6月下旬以降、道南地域の醸造用ぶどう園地において、チャバネアオカメムシ等の大型カメムシ類(写真1,2)の発生が目立っており、また道央地域のりんご試験園地(無防除)や醸造用ぶどう園地においても発生が確認されています。北海道での大型カメムシ類によるぶどうへの加害は令和5年8月中旬に初めて確認されましたが、本年の発生確認は令和5年度より1~2カ月早くなっています。

チャバネアオカメムシは、本州では成虫越冬して寄主を変えながら年1~3回発生することが報告されています。北海道内における発生生態は不明な点が多いのですが、通常は年1回の発生と考えられ、りんご、ぶどう、おうとうの果実等を加害することが確認されています。一方、ブチヒゲカメムシは成虫越冬して年1~2回発生すると考えられています。

札幌管区気象台発表の7月3日付け1か月予報によると、向こう1か月の気温は平年より高いと予報されており、果樹を加害する大型カメムシ類の活動が活発になるものと予想されます。

以上のことから園地の観察に努め、発生を確認したら早めの防除を実施してください。

1. 発生地域 道南・道央

ただし、道北・道東地域においても園地の観察につとめ、発生が確認された場合は速やかに防除対策を実施する。

2. 発生期 早

3. 予想される発生量 多

4. 注意報発令の根拠

- (1) 北海道のぶどうへの加害が初めて確認された令和5年度の発生時期は8月中旬であったが、本年の発生確認時期は令和5年度と比較して1~2カ月早い。
- (2) 札幌管区気象台発表の7月3日付け1か月予報によると、向こう1か月の気温は平年より高いと予報されており、活動が活発になるものと予想される。

5. 防除対策

北海道では、これまでにチャバネアオカメムシ等によるりんご、ぶどう、おうとうへの加害を確認しているが、防除対策は確立されていないことから、農林水産省や他府県で示されている以下を当面の防除対策とする。

- (1) 山林から園地への果樹カメムシ類の飛来数は地域による差が大きいため、園地への飛来状況をよく観察する。特に、山間部や山林に隣接する園地では注意する。
- (2) 成虫が次々に飛来して果実被害が懸念される場合には、樹種ごとに表1~3に示す薬剤で直ちに防除を実施する。
- (3) 天敵類にも影響を及ぼすピレスロイド系剤(RACコード:3A)を散布した後は、ハダニ類やカイガラムシ類が増加することがあるので、これらの発生にも注意する。
- (4) 有袋栽培は吸汁被害を抑制する効果があるため、袋かけは遅れないように実施する。また、果実の肥大によって袋に果実が密着すると袋の上から吸汁されることがあるので、果実と袋の大きさのバランスに留意する。



写真1 チャバネアオカメムシ成虫



写真2 ブチヒゲカメムシ成虫

表1 りんごのカメムシ類に対する農薬登録一覧 (2025年7月7日現在)

殺虫剤系統(RACコード)	農薬の種類	有効成分濃度	希釈倍数 使用量	使用時期	本剤の 使用回数	総使用回数
有機リン系(1B)	M E P水和剤	40.0%	800~1,000倍	収穫30日前まで	3回以内	3回以内
	P A P水和剤	40.0%	1,000倍	収穫45日前まで	2回以内	2回以内 (樹幹散布は1回以内)
	C Y A P水和剤	40.0%	1,000倍	収穫14日前まで	1回	1回
フェニルピラゾール系(2B)	エチプロール水和剤	10.0%	2,000倍	収穫14日前まで	2回以内	2回以内
	シフルトリン乳剤	5.0%	2,000倍	収穫7日前まで	4回以内	4回以内
ピレスロイド系(3A)	フェンプロバトリン水和剤	10.0%	1,000~1,500倍	収穫前日まで	2回以内	7回以内(噴射は5回 以内、散布は2回以内)
	トラロメトリン水和剤	1.4%	1,500~2,000倍	収穫前日まで	5回以内	5回以内
	ピフェントリン水和剤	7.2%	3,000倍	収穫前日まで	1回	1回
	アクリナトリン水和剤	6.0%	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	3回以内
	アセタミプリド水溶剤	20.0%	2,000~4,000倍	収穫前日まで	3回以内	3回以内
ネオニコチノイド系(4A)	イミダクロプリド水和剤	50.0%	5,000倍	収穫3日前まで (ただし、露地栽培 については発芽期 から開花期を除く)	2回以内	2回以内
	チアクロプリド水和剤	30.0%	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	3回以内
	チアメトキサム水溶剤	10.0%	2,000倍	収穫7日前まで	2回以内	2回以内
	クロチアニジン水溶剤	16.0%	2,000~4,000倍	収穫前日まで	3回以内	3回以内
	ジノテフラン水溶剤	20.0%	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	3回以内
ジアミド系(28)	シクラニリプロール液剤	4.5%	2,000倍	収穫前日まで	2回以内	2回以内

表2 ぶどうのカメムシ類に対する農薬登録一覧 (2025年7月7日現在)

殺虫剤系統(RACコード)	農薬の種類	有効成分濃度	希釈倍数 使用量	使用時期	本剤の 使用回数	総使用回数
ネオニコチノイド系(4A)	クロチアニジン水溶剤	16.0%	2,000~4,000倍	収穫前日まで	3回以内	3回以内
	ジノテフラン水溶剤	20.0%	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	3回以内 (塗布は1回以内)
ジアミド系(28)	シクラニリプロール液剤	4.5%	2,000倍	収穫前日まで	2回以内	2回以内

表3 おうとうのカメムシ類に対する農薬登録一覧 (2025年7月7日現在)

殺虫剤系統(RACコード)	農薬の種類	有効成分濃度	希釈倍数 使用量	使用時期	本剤の 使用回数	総使用回数
ピレスロイド系(3A)	シベルメトリン水和剤	6.0%	1,000倍	収穫3日前まで	2回以内	2回以内
	ピフェントリン水和剤	7.2%	3,000~4,000倍	収穫前日まで	2回以内	2回以内
	アセタミプリド水溶剤	20.0%	2,000~4,000倍	収穫前日まで	1回	1回
ネオニコチノイド系(4A)	チアメトキサム水溶剤	10.0%	2,000倍	収穫前日まで	2回以内	2回以内
	クロチアニジン水溶剤	16.0%	2,000倍	収穫前日まで	2回以内	2回以内
	ジノテフラン水溶剤	20.0%	2,000倍	収穫前日まで	2回以内	2回以内
ジアミド系(28)	シクラニリプロール液剤	4.5%	2,000倍	収穫前日まで	2回以内	2回以内